

科目名 成人看護学の概論
 授業科目の区分 専門分野Ⅱ 成人看護学
 履修対象 1年次 前期
 単位 30時間1単位
 担当講師 専任教師
 授業概要

42

1. 成人期にある人の特徴並びに成人各期の特性について理解する
2. 成人期にある人の健康障害が個人や家族、社会に及ぼす影響について理解する
3. 成人各期の健康問題を知り、健康管理や疾病予防、健康の保持増進における看護について理解する
4. 成人保健の動向と対策、保健活動について理解する
5. 成人看護学に活用される理論について理解する

授業計画

回	項目	内容	方法
1	成人であるということ	・成人の定義 ・成人であることの自覚 ・成人の特徴 ・成人の役割	講義 グループワーク
2	成長発達の特徴	・成人期の発達課題と理論 ・青年期の特徴 身体的、心理・社会的 ・青年期の健康問題	
3	成長発達の特徴	・壮年期の特徴 身体的、心理・社会的 ・壮年期の健康問題 ・向老期の特徴 身体的、心理・社会的 ・向老期の健康問題	
4	生活習慣に関連する健康障害	・生活習慣と健康障害との関連 ・生活習慣病の予防と対応 ・生活習慣病の予防とセルフケア	
5	生活習慣に関連する健康障害 生活ストレスに関連する健康障害	・喫煙防止 ・生活ストレスと健康障害 ・成人の生活ストレス ・ストレス関連疾患の予防と対応 ・薬物乱用防止	講話(兵庫県警)
6	職業に関する健康障害	・職業性疾病及び業務上疾病 ・職業性疾病の予防と対応	
7・8	危機	・危機とは、危機の特徴 ・危機介入 ・事例で考えるフランクのモデルを活用した危機介入	闘病記
9・10	セクシュアリティに関連する健康障害	・セクシュアリティと健康に関連する概念 ・性的健康の指標及び実態 ・性に関連する健康障害の予防および対応	映画鑑賞
11	適応	・盲ろう者について ・聴覚障害について ・聴覚障害者とのコミュニケーション	手話
12・13	成人の死	・発達段階における死の理解 ・告知の是非 ・死の受容過程 ・死の不安とその要素	
14	成人の死	・死に向かう人の家族 ・ホスピスケア	ビデオ 闘病記
15	遷延性意識障害	・遷延性意識障害とは ・遷延性意識障害の人の家族	闘病記

発展科目:

テキスト: ナーシング・グラフィカ 成人看護学① 成人看護学概論 メディカ出版

成績評価: 終講時試験 レポート

2018. 3改訂

科目名 健康危機状況
 授業科目の区分 専門分野Ⅱ 成人看護学
 履修対象 2年次 後期
 単位 1単位30時間
 担当講師 専任教師 1名 非常勤講師 1名
 授業概要 成人が極めて深刻なセルフケア困難に陥っている時の看護を学ぶ

授業計画

回	項目	内容	方法
1 2	1. 健康危機状況にある成人の理解	1)成人にとっての健康とは 2)成人にとっての危機とは ・発達の危機 ・状況的危機 ・危機モデルを活用した危機介入	講義 グループワーク
3	2.健康危機状況にある成人に生じるセルフケア不足	1) 五つのセルフケア不足 2) 苦痛の緩和 3) 身体機能悪化の予防と早期発見 4) 生活行動変更への支援 5) 心理的・精神的混乱への支援	
4 5 6	代表的な健康危機状況と看護の特徴	1) 術前アセスメント 2) 手術室における看護の展開 入室前、入室時の看護 麻酔導入時の看護 脊椎麻酔時の看護 3) 心不全の事例でのアセスメント 4) 輸血療法	事例演習
7			
8	家族および重要他者の不安や負担への対応	1) 成人の発達段階に応じた家族または重要他者との関係性 2) 家族についてのアセスメント方法 3) 患者の健康状況とキーパーソンおよびその他の家族の相互作用	事例演習
9 10 11 12	4. 健康危機状況にある患者の看護	1) 病棟入院患者 全身麻酔＋硬膜外麻酔 入院までの経過 病名の告知 心理・精神的混乱 患者の苦痛・生活行動変更への対応困難 家族や重要他者の不安や負担 手術 術後の看護	事例演習
13 14 15		3) ICU・CCU入室患者の看護 食道癌の手術前後の看護 人工呼吸器装着時の看護 緊急入院時の看護 急性心筋梗塞	

発展科目： 全科目 臨地実習における看護の基本である
 テキスト： ナーシング・グラフィカ 成人看護学②
 健康危機状況/セルフケアの再獲得 メディカ出版
 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院
 系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護学 医学書院
 成績評価： 講義終了後にテスト 参加度

科目名 セルフケアの再獲得
 授業科目の区分 専門分野Ⅱ 成人看護学
 履修対象 2年次 前期
 単位 1単位30時間
 担当講師 非常勤講師 4名
 授業概要 外傷や疾病によってセルフケアが低下した状態に陥ったとき、セルフケアを再獲得し、再び「その人らしく生きていく」ための看護支援について理解する

授業計画

回	項目		方法
1	1. セルフケアの低下状態にある成人の理解	1) 成人にとってのセルフケア再獲得 2) セルフケアの低下と再獲得 3) セルフケアの再獲得と自立	講義
2	2. セルフケアの再獲得を必要とする成人への看護	1) セルフケア低下状態のアセスメントと評価	講義
3		2) セルフケア再獲得を支援する方法 3) セルフケア再獲得を支援する人的システム 4) セルフケア再獲得を支援する法的システム 5) セルフケアを再獲得するプロセスにある人権擁護	講義
4			
5	3. セルフケア再獲得を目指す成人への看護の実際	1) 生命維持レベルのセルフケアの再獲得 脳出血急性期にある人の看護 (1) 脳出血の病態と急性期の治療 (2) 脳出血急性期における看護 (3) 脳出血生命維持レベルのセルフケア再獲得支援	講義 演習
6		2) 生活基本行動レベルのセルフケアの再獲得 脳出血回復期にある人の看護 (1) 脳出血の回復期の病態・治療・看護 (2) 脳出血回復期の生活基本行動レベルのセルフケア再獲得支援	
		3) 家庭におけるセルフケアの再獲得 脳出血の家庭復帰期にある人の看護 (1) 脳出血の家庭復帰における治療と看護 (2) 退院後の生活における課題 (3) 脳出血患者の家庭復帰にむけたセルフケア再獲得支援	
7		4) 家庭生活の役割遂行に関わるセルフケアの再獲得 関節リウマチをもつ人の看護 役割遂行に関わるセルフケア再獲得支援	
10		5) 職業生活とセクシュアリティに関わるセルフケアの再獲得 脊髄を損傷した人の看護 職業生活とセクシュアリティに関わるセルフケア再獲得支援	
		6) 地域生活や余暇生活に関わるセルフケアの再獲得 中途視覚障害者のコミュニケーションに関わるセルフケア再獲得支援	
11		4. リハビリテーション	
		1) リハビリテーション概論	
		2) 運動器系の障害とリハビリテーション看護	
15		3) 中枢神経系の障害とリハビリテーション看護 (1) 脳血管障害 (2) 脊椎損傷 4) 呼吸器・循環器系の障害とリハビリテーション	

発展科目: すべての科目、実習の基礎となる
 テキスト: ナーシング・グラフィカ 成人看護学② 健康危機状況/セルフケアの再獲得 メディカ出版
 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院
 成績評価: 終講時テスト 参加度

科目名 セルフマネジメント
 授業科目の区分 専門分野Ⅱ 成人看護学
 履修対象 2年次 後期
 単位 1単位 30時間
 担当講師 非常勤講師 2名
 授業概要 慢性的な病を持った人がシンブトン・マネジメント(自分の症状と生活のなかで折り合いをつけて付き合っていく方法)とサイン・マネジメント(客観的に測定、観察できるデータや徴候の意味をアセスメントし、対処する方法)を獲得していく過程の看護を学ぶ。

45

授業計画

回	項目	内容	方法
1	1. セルフマネジメントとは	1) セルフマネジメントとは 2) セルフマネジメントのための対象理解 3) 成人教育学 (1) 成人教育学(アンドラゴジー参照) (2) エンパワメントモデル (3) 自己効力理論	講義
2	2. セルフマネジメントを推進する看護方法 ～セルフマネジメントの過程	1) 対象理解 2) 援助方法 3) 評価の仕方	講義
3 5 6	3. セルフマネジメントを目指す看護の実際	1) 糖尿病とともに生きるセルフマネジメント (1) 糖尿病に関する知識 ① 糖尿病とは ② 糖尿病の診断基準 ③ 糖尿病の検査、治療 ④ 自己血糖測定 ⑤ 糖尿病の症状 ⑥ 糖尿病に特有な合併症の種類と疫学 (2) 糖尿病をもつ患者のセルフマネジメント事例	講義
7		2) 腎不全とともに生きるセルフケアマネジメント	
8 9 12		3) 慢性呼吸不全とともに生きるセルフマネジメント (1) 呼吸不全とはどのような状態か ① 呼吸不全の定義と診断基準 ② 呼吸不全の発生機序と原因 ③ 長期酸素療法 (2) 慢性呼吸不全(COPD)をもつ人への一般的対応 ① 酸素機器に関するマネジメント ② 気道感染の予防 ③ 安楽な体位と呼吸方法 ④ 薬物療法に関するマネジメント ⑤ 息切れの少ない生活のためのマネジメント (3) 呼吸不全の患者のセルフマネジメント事例	講義
13 15	4. 慢性疾患患者に対する災害看護	1) 慢性疾患の特性と災害時の療養生活への影響 2) 慢性疾患患者と災害時の脆弱性 3) 慢性疾患を持つ患者と家族に対する災害看護	講義 GW

発展科目: 看護に必要な講義、実習の基礎となる
 テキスト: ナーシング・グラフィカ 成人看護学③ セルフマネジメント メディカ出版
 系統看護学 専門Ⅱ 成人看護学[6] 内分泌・代謝 医学書院
 系統看護学 専門Ⅱ 成人看護学[2] 呼吸 医学書院
 成績評価: 終講時試験・参加度

2021.3改訂

科目名 ターミナルケア
 授業科目の区分 専門分野Ⅱ 成人看護学
 履修対象 2年次 後期
 単位 1単位 30時間
 担当講師 非常勤講師 3名
 授業概要

46

1. 人間が存在し生きるという過程を、患者や家族のQOLという視点から捉え、死と向き合っている患者や家族が成し遂げる過程を支援する看護を学ぶ。
2. 死後のケア、遺族への関わりについて理解する。
3. 苦しみに寄り添う医療者自身のケアについて理解する

授業計画

回	項目	内容	方法
1	1. 緩和ケアの現状と展望	1) 緩和ケアの歴史と理念 2) 全人的苦痛について事例検討 「若年乳がん終末期の患者」	講義 演習
2	2. 緩和ケアにおけるチームアプローチ	1) チームアプローチの意義 2) 事例「チームアプローチを考える」	
3	3. 緩和ケアにおけるコミュニケーション	1) コミュニケーションの基礎知識 意義 スキルとプログラム 2) 事例「コミュニケーションを考える」	
4	4. 緩和ケアにおける倫理的課題	1) 意思決定支援 アドバンス・ケア・プランニング 2) 臨床で直面する倫理的課題	
5	5. 全人的ケアの実践 身体的ケア①	1) 症状マネジメントと日常生活を支えるケア 疼痛	
6	6. 全人的ケアの実践 身体的ケア②	1) 症状マネジメントと日常生活を支えるケア 呼吸困難	
7	7. 全人的ケアの実践 身体的ケア③	1) 症状マネジメントと日常生活を支えるケア 消化器症状	
8	8. 全人的ケアの実践 心理的ケア	1) 心の反応 ストレス 2) 主な精神症状と対応 不安・抑うつ せん妄 認知症	
9	9. 全人的ケアの実践 社会的ケア	1) 療養者の暮らしの支援 2) 在宅への移行支援	
10	10. 全人的ケアの実践 スピリチュアルケア	1) スピリチュアルペインについて 2) スピリチュアルペインのアセスメントとケア	
11	11. 緩和ケアの広がり	1) ライフサイクルによる広がり ・小児、AYA世代、高齢者	
12	12. 緩和ケアの広がり	1) さまざまな疾患のひろがり ・悪性腫瘍、心疾患、呼吸器疾患、神経難病 脳血管疾患、腎疾患	
13	13. 臨死期のケア	1) 臨死期の概念とケアの目標 2) 臨死期の全人的苦痛の緩和 3) 看取り期、死亡後のケア	
14	14. 家族のケア	1) 家族とは 家族ケアの方法 2) グリーフケアと遺族ケア	
15	15. 医療スタッフのケア	1) ストレスマネジメント 2) マインドフルネス ☆すべての回で事例を通して考える機会を作る	

発展科目： 成人看護学、老年看護学、在宅看護論
 テキスト： 系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院
 成績評価： 終講時試験・参加度

2021.1改訂

科目名 がん看護
 授業科目の区分 専門分野Ⅱ 成人看護学
 履修対象 2年次 後期
 単位 1単位 15時間
 担当講師 非常勤講師 5名
 授業概要

47

がんとはがん患者の特徴、治療についての知識を深め、患者にとって化学療法を行う意義を考えながら、安全安楽に治療が受けられるように、患者・家族を支援する看護を学ぶ。

授業計画

回	項目	内容	方法
1 2 3	がん看護 1.がん医療の現在と看護 2.がんの病態と臨床経過 3.がん患者の看護 4.がんの治療 5.がん治療に対する看護 6.がん治療の場と看護	1)がんの病態 2)がん患者の臨床経過 1)苦痛に対するマネジメント 2)心理的サポート 3)予防と早期発見 4)症状マネジメント 1)手術療法の看護 2)放射線療法の看護 1)意思決定支援(アドバンスケアプランニング) 1)外来がん看護 2)がん患者の療養支援	講義
4 5	化学療法 1.がんと化学療法 2.化学療法看護を受ける患者への看護 3.抗がん剤の取り扱い 4.外来化学療法室の紹介 5.抗がん剤の特徴	1)化学療法の適応・目的・手術療法との関係 2)化学療法と手術療法との関係 3)化学療法と放射線療法との関係 4)化学療法の効果・副作用・有効性 5)抗がん剤の作用機序 6)最近の化学療法のキーワード 1)抗がん剤投与時に考慮すべき因子 2)抗がん剤治療のプロセス 3)抗がん剤の副作用の発現時期 4)患者・家族への教育的支援 5)治療後の看護 1)ケミカルハザード 1)外来化学療法室の流れ 2)外来化学療法室の利用状況 1)抗がん剤の副作用のマネジメント	講義
6 7	乳がん患者のセルフマネジメント事例	1)疾患、分類、検査、診断 2)治療 化学療法、内分泌療法、手術療法、放射線療法 3)看護ケア	講義 演習

発展科目：看護、実習の基礎となる

テキスト：系統看護学講座 別巻 がん看護 医学書院
 系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院
 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [4] 血液・造血器 医学書院
 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [9] 女性生殖器 医学書院
 適宜 資料配布
 乳がん患者のセルフマネジメント事例

成績評価：終講時試験・参加度

2021.1改訂

科目名 老年看護学の概論
 授業科目の区分 専門分野Ⅱ 老年看護学
 履修対象 1年次 後期
 単位 1単位 30時間
 担当講師 非常勤講師

授業概要

1. ライフサイクルの中で老年期をとらえ、高齢者の特徴(身体的・精神的・社会的)とその健康生活を理解する。
2. 加齢に伴う変化と老年期にある人々の生活適応を阻害する諸要因について、身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解する。
3. 老年期の健康障害が個人や家族、社会に及ぼす影響について理解する。
4. 老年期に対する保健医療福祉の動向と対策(活動)について理解する。
5. 自分自身の老年観を言語化(客観視)し、洞察する。
6. 老年看護の実践の核となる看護倫理について考え、自己の倫理観を涵養する。
7. 老年期の生活の質を保障する老年看護のあり方について考察する。

授業計画

回	項目	内容	方法
1	ライフサイクルから見た老年期	・自己の老年観とエイジズム ・「老人・高齢者」(老年期)の定義 ・エイジング(aging)とサクセスフルエイジング ・「ある高齢患者の入院体験記」を読んでdiscussion	
2	老年期の発達と成熟	・老年期の発達課題 ・老年各期(前期高齢者・後期高齢者)の特徴	祖父祖母へのインタビュー内容をもとにして
3	加齢に伴う変化①	・加齢に伴う変化の特徴 ・身体的機能の変化(内臓機能の変化、運動・体力の変化、感覚・知覚の変化) ・心理・精神的機能の変化 ・人格と尊厳 ・喪失体験	
4	加齢に伴う変化②	・社会的機能の変化 ・霊的变化	
	高齢者の健康①	・健康状態の多様性 ・healthy-wellness	
5	高齢者の健康② 高齢者の生活史	・高齢者の健康問題 ・高齢者の生活史 ・価値観の多様性 ・生活習慣・生活様式の多様性 ・QOL	
	高齢者と家族	・高齢者と家族のライフサイクル ・家族構成の変化 ・家族形態の変遷 ・高齢者と家族の人間関係 ・老老介護	
6・7	高齢者の人権擁護と老年看護における倫理的課題	・人権とは ・高齢者虐待(エイジズムとの関連) ・弱者の側面から見た高齢者と看護アドボケイト(擁護者)の意義 ・人権を尊重した看護活動の観点 ①擁護者としての看護の役割 ②高齢者と看護者による共同意思決定 ③医療サービスを受ける高齢者の満足感 ・高齢者虐待	
	高齢者と社会保障システム(保健医療福祉制度)	・高齢者の社会参加 ・高齢者のソーシャルサポート ・高齢者サービスシステム ・介護保険 ・老年看護活動の場の特徴と看護	

回	項目	内容	方法
8	褥瘡をあてることの是非(ディベート)	・褥瘡賛成派と褥瘡反対派に分かれてディベートを実施し、褥瘡をあてることの問題について理解を深めるとともに、老年看護のあり方について理解を深める	ディベート
9	身体拘束の是非(ディベート)	・身体拘束賛成派と身体拘束反対派に分かれてディベートを実施し、身体拘束の問題について理解を深めるとともに、老年看護のあり方について理解を深める	ディベート
10・11	高齢者の健康問題と介護	・テレビドラマ「恍惚の人」の鑑賞 ・「恍惚の人」を見て、老年看護のあり方についてdiscussion ・老年看護のkeyword:「支える」	DVD視聴 discussion
12・13	老年看護の実践とリフレクション	・「ユマニチュード入門」「パーソンセンタードケア」をもとにしたdiscussion	discussion
14・15	これからの老年看護 まとめ	・これまでの講義で学習した内容を総合して、老年看護のあり方について考察する	discussion

発展科目： 老年看護学の学習過程における導入部分として位置づけられ、老年看護の実践者にとって最も基礎的な知識と態度を涵養することで、老年看護援助論Ⅰ～Ⅲならびに老年看護実習Ⅰ～Ⅱの土台となります。

テキスト： 北川公子、他：系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学、医学書院
厚生統計協会：国民衛生の動向
本田美和子/イヴ・ジネス/ロゼット・マレスコッティ：ユマニチュード入門、医学書院、2014
寺田真理子：パーソンセンタードケア講座—認知症がある人と関わるためのはじめの一步
全国コミュニティライフサポートセンター、2010.

成績評価： 終講時試験、ディベート内容、授業へのコミットメント等により総合的に評価

科目名 高齢者のアセスメントとセルフケアの支援
 授業科目の区分 専門分野Ⅱ 老年看護学
 履修対象 2年次 前期
 単位 1単位 30時間
 担当講師 専任教師 2名
 授業概要 高齢者の特徴とそれに伴う健康上の諸問題と動向を知り、対象に応じた看護を行う基礎的能力を養う。

49

授業計画

回	項目	内容	方法
1	老いるということ	高齢者体験	演習
2	老いるということ	老年看護の理念 生活志向の看護 生理的・精神的・社会的ニーズを満たす 生活への援助 高齢者看護の特性 看護者の態度 高齢者の特性からみた高齢者看護	講義
3	高齢者のヘルスアセスメント	ヘルスアセスメントの基本 ヘルスアセスメントの枠組み 高齢者総合機能評価(CGA)	講義
4	高齢者のヘルスアセスメント	身体に加齢変化とアセスメント ①皮膚 ②視聴覚 ③循環系 ④呼吸器系 ⑤消化器系 ⑥ホルモンの分泌 ⑦泌尿生殖器 ⑧運動系	講義
5	高齢者のリスクマネジメント	高齢者のリスクマネジメント 高齢者と医療安全 高齢者と救命救急 高齢者と災害	講義
6	高齢者の生活機能を整える看護	食事・食生活	講義
7	高齢者の生活機能を整える看護	日常生活を支える基本的活動	講義
8		排泄	GW
9		清潔・入浴	
10		生活リズム コミュニケーション	
11	高齢者の生活機能を整える看護	住まい 経済状況 社会状況	講義
12	高齢者の生活機能を整える看護	排泄ケアの特徴 おむつの歴史 おむつがもたらす弊害 おむつ交換	講義 演習
13	エンドオブライフケア	エンドオブライフケアの概念 「生きる」ことを支えるケア 意思決定への支援 末期段階に求められる援助	講義
14	生活・療養の場における看護	高齢者とヘルスプロモーション	講義
15	高齢者のヘルスプロモーション	高齢者とレクリエーション	演習

発展科目： 在宅看護論、臨地実習
 テキスト： 系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院
 系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院
 成績評価： 終講時試験
 参加度

科目名	健康障害を持つ高齢者の看護
授業科目の区分	専門分野Ⅱ 老年看護学
履修対象	2年次 後期
単位	1単位 30時間
担当講師	専任教師 1名 非常勤講師 1名
授業概要	老年期にある健康障害の特徴、診断治療過程における看護の基礎について学ぶ。

授業計画

回	項目	内容	方法
1	疾患・障害に対する看護	老年症候群 脱水・浮腫	講義
2	疾患・障害に対する看護	痛み しびれ	
3	疾患・障害に対する看護	転倒・骨折 骨粗鬆症 ロコモティブシンドローム・サルコペニア・フレイル	
4	疾患・障害に対する看護	パーキンソン病、パーキンソン症候群	
5	疾患・障害に対する看護	掻痒(かゆみ) 老人性皮膚掻痒症 疥癬	
6	疾患・障害に対する看護	高齢者に多い主な感染症 肺炎・誤嚥性肺炎、インフルエンザなど 感染性胃腸炎 高齢者とがん	
7	認知機能障害のある高齢者の看護	うつ 高齢者のうつの背景と特徴、援助	講義
8	認知機能障害のある高齢者の看護	せん妄 高齢者のせん妄の特徴と予防、援助	
9 10 11	認知機能障害のある高齢者の看護	認知症 認知症の定義・症状 四大認知症 アルツハイマー型認知症 レビー小体型認知症 前頭側頭型認知症 脳血管性認知症 認知症の診断、認知機能の評価 認知症の看護	
12	薬物療法を受ける高齢者の看護	加齢に伴う薬物動態の変化 ポリファーマシー 高齢者に多い薬物有害事象 薬物療法における援助・服薬管理	講義
13 14	入院治療を受ける高齢者の看護	診察・検査 手術を受ける高齢者の看護 高齢者に特徴的な手術 入院から退院までの支援 リハビリテーション	
15	高齢者を介護する家族の看護	介護家族の生活と健康 家族への援助	

発展科目： 在宅看護論
 テキスト： 系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院
 系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院
 成績評価： 学科試験
 参加度

科目名 老年看護の実践

授業科目の区分 専門分野Ⅱ 老年看護学

履修対象 2年次 後期

単位 1単位 15時間

担当講師 非常勤講師 2名

授業概要 1. 疾患や障害を持つ高齢者に対し、生活機能の視点から看護に必要なアセスメント能力を養う。
2. 医学的管理を必要とする看護技術について学ぶ。
3. 患者・家族の自己管理およびセルフケア支援の方法を学ぶ。

授業計画

回	項目	内容	方法
1 2 3	褥瘡・スキンケアの看護	高齢者の皮膚の特徴 スキンケア スキンケア 褥瘡の発生機序、リスクアセスメント 褥瘡の分類、治療・創傷管理 ポジショニング	講義
4 5 6	排泄障害の看護	排泄について 高齢者の排泄ケアの基本 排尿障害のアセスメントとケア 排便障害のアセスメントとケア	講義 講義
7 8	ストーマ造設患者の看護	ストーマの分類 消化管ストーマ 尿路ストーマ ストーマ造設時の看護 術前のアセスメント ストーマサイトマーキング ストーマ管理 ストーマケア	講義 演習

発展科目： 在宅看護論、臨地実習

テキスト： 系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院
系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学[5] 消化器 医学書院
系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学[8] 腎・泌尿器 医学書院
系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学[12] 皮膚 医学書院

成績評価： 終講時試験
参加度

科目名 小児看護学の概論
 授業科目の区分 専門分野Ⅱ 小児看護学
 履修対象 1年次 後期
 単位 1単位 15時間
 担当講師 専任教師

授業概要 小児を取り巻く社会環境の変化、子どもの権利・人権について学び、看護の役割について理解する

授業計画

回	項目	内容	方法
1	小児看護とは 小児看護の歴史と意義	子どもに対するイメージマップを書こう 小児看護の対象 小児看護の目的 小児看護の歴史	講義、DVD イメージマップ
2 3	子どもの権利と看護	子どもの人権 児童憲章、子どもの権利条約 子どもに関する新聞記事 小児看護と倫理的配慮	講義 グループワーク NIE
4	小児看護と法律・施策	小児医療の課題 子どもを取り巻く社会環境(統計含む) 児童福祉法、母子保健法	講義
5	障害のある子どもと家族の看護	障害のとらえ方 障害のある子どもと家族のニーズ 社会的支援	講義、ビデオ グループワーク
6 7	子どもの最善の利益	子どもの最善の利益について考える 事例を用いて考えよう	グループワーク

発展科目: 小児の成長発達と看護、健康障害をもつ小児の看護、小児看護技術

テキスト: 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学1
小児看護学概論 小児臨床看護総論

成績評価: 筆記試験、レポート、講義・演習への参加状況などに基づいて評価する

科目名 小児の成長発達と看護
 授業科目の区分 専門分野Ⅱ 小児看護学
 履修対象 2年次前期
 単位 1単位 30時間
 担当講師 非常勤講師
 授業概要

子どもの成長発達健康増進のための子どもと家族への看護実践を学ぶ。

授業計画

回	項目	内容	方法
1	子どもの成長・発達	子どもの成長・発達の原則と影響因子 子どもの成長・発達のアセスメント 小児期における成長・発達の特徴	講義・演習 NIEを取り入れて演習
2 3 4 5	乳児期の成長・発達に応じた生活への支援	・乳児期とは ・形態的特徴・身体生理の特徴 ・感覚器機能、運動機能、知的機能 ・コミュニケーション機能、情緒・社会的機能 ・乳児の養育および看護 日常生活の世話 遊びの支援 事故防止 乳幼児突然死症候群とその予防 育児支援	講義、演習 ロールプレイ 調乳演習・ 離乳食試食
6 7 8 9	幼児期の子どもの成長・発達と看護	・形態的・身体生理の特徴 ・機能的発達の特徴 ・心理・社会的発達 ・幼児の養育 排泄、食事、睡眠、清潔、遊び、安全 ・幼児のいる家族への看護 ・エリクソン自我発達理論 ・ピアジェの認知発達理論	講義、演習 グループワーク
10 11 12	学童期の子どもの成長・発達と看護	・学童期とは ・形態的特徴 ・機能的発達 ・心理・社会的発達 ・学童を取り巻く環境 ・学童の養育と看護 ・学校保健 ・予防接種 ・エリクソン自我発達理論 ・ピアジェの認知発達理論 ・セルフケア理論	講義
13	思春期の子どもの成長・発達と看護	・思春期とは ・身体的特徴 ・機能的発達 ・心理・社会的発達 ・思春期の人々によく見られる健康問題 ・思春期の人々の看護 ・エリクソン自我発達理論	講義
14 15	子どもについて (社会環境・健康問題等)	子どもの虐待	講義 グループワーク

発展科目: 小児看護学の概論、健康障害をもつ小児の看護、小児看護技術
 テキスト: 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学1
 小児看護学概論 小児臨床看護総論
 成績評価: 筆記試験、レポート、講義・演習への参加状況などに基づいて評価する

科目名 健康障害をもつ小児の看護
 授業科目の区分 専門分野Ⅱ 小児看護学
 履修対象 2年次後期
 単位 1単位 30時間
 担当講師 非常勤講師 3名
 授業概要 健康障害が小児及び家族に及ぼす影響について理解し、あらゆる健康状態にある小児及びその家族の看護について理解する。

授業計画

回	項目	内容	方法
1 2 3	代表的な小児疾患の理解	新生児期に多い疾患 (新生児一過性多呼吸・呼吸窮迫症候群・脳室周囲白質軟化症 未熟児網膜症・ファロー四徴症・心房中隔欠損症・心室中隔欠損症) 染色体異常(ダウン症候群・18トリソミー・性染色体異常) 感染症:麻疹・風疹・流行性耳下腺炎・水痘・髄膜炎 神経疾患:脳性麻痺・進行性筋ジストロフィー	講義
4 5	健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響と看護	子どもの病気の理解 健康障害に伴う子どものストレスと対処 子どもの健康障害と援助 子どもの健康障害に対する家族の反応 健康障害を持つ子どもの家族への支援 入院中の子どもと家族の看護	講義 GW
6 7 8	急性期にある子どもと家族への看護	急性期にある子どもと家族への援助 症例を用いて病態の理解 (肺炎・川崎病・幽門狭窄症・腸重積症・腸炎)	講義 GW
9 10	慢性期にある子どもと家族への看護	慢性期の特徴 慢性期にある子どもと家族 慢性期にある子どもと家族のエンパワメントを支援する看護 症例を用いて病態の理解 (Ⅰ型糖尿病・気管支喘息・ネフローゼ症候群)	講義 GW
11	終末期にある子どもと家族への看護	子どもの死の概念発達 終末期にある子どもと家族の心理 終末期にある子どもの身体徴候、痛み・不安に対する援助 終末期にある子どもの家族への援助	講義
12	外来における子どもと家族への看護	外来看護の果たす役割 外来看護における子どもと家族への援助、小児外来の環境 外来看護の現状の課題と今後の展望	講義 演習 ビデオ
13 14	在宅における子どもと家族への看護	小児在宅療養の意義、小児在宅ケアの現状 在宅療養を必要とする子どもと家族の特徴 在宅療養を行う子どもと家族への看護 在宅療養の継続における看護 障害のある子どもと家族の社会的支援	講義 GW
15	災害を受けた子どもと家族への看護	被災地の環境と看護の役割 災害を受けた子どもの心と身体への影響 災害時の子どもと家族への看護	講義

発展科目: 小児看護学の概論、成長発達と看護、小児看護技術
 テキスト: 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学1
 小児看護学概論 小児臨床看護総論
 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学2 小児臨床看護学各論
 成績評価: 筆記試験、レポート、講義・演習への参加状況などに基づいて評価する

科目名 小児看護技術
 授業科目の区分 専門分野Ⅱ 小児看護学
 履修対象 2年次後期
 単位 1単位 30時間
 担当講師 非常勤講師 2名
 授業概要

技術は子どもの安全のうえで大切である。一人ひとりの子どもの権利を擁護し、子どもに安全で安楽なケアを提供していく。基礎看護学などでの学びを基礎に、成長・発達途上にあるがゆえに、環境の影響を受けやすく変化が早い、健康を障害された小児の理解と特性に応じた看護援助技術の方法を学ぶ。

授業計画

回	項目	内容	方法
1 2	援助関係を形成する技術	子どもとの援助関係を形成する技術 家族との援助関係を形成する技術 援助関係を形成する上で必要な基礎知識 援助関係を形成する技術の活用 子どもへの説明と同意 子どものコミュニケーション	講義 グループワーク ロールプレイ
3 4	症状・生体機能の管理技術	バイタルサインの測定 身体計測 発育の評価：形態的性徴の観察と評価 心理学的発達の評価法 検査(採尿・採便・骨髄穿刺・腰椎穿刺)	講義、演習
5 6		発熱時のアセスメントと看護 脱水時のアセスメントと看護 痙攣時のアセスメントと看護	講義
7 8	検査や処置・手術を受ける子どもと家族への看護	手術を受ける子どもの特徴 子どもの力を引き出す援助、プレパレーション 手術を受ける術前・術後の看護 検査や処置・手術を受ける子どもの家族への援助 安全・安楽を確保するための援助	講義、演習 ビデオ
9	環境を調節する技術	発達段階に応じた環境づくり 睡眠と休息に適した環境づくり 事故を防止する環境づくり 感染予防のための環境づくり	講義 グループワーク
10	食事・排泄の援助技術	子どもへの食事援助の実際 子どもの健康状態に応じた食物・栄養摂取方法とケア 子どもへの排泄援助の実際	講義、演習
11 12 13	呼吸・循環を整える技術	酸素療法 吸引 吸入 人工呼吸器の管理 呼吸困難時のアセスメントと看護 生命徴候が危険な状況のアセスメントと看護	講義、演習
14 15	与薬の技術	経口薬 座薬 注射 輸液管理	講義、演習

発展科目： 小児看護学の概論、成長発達と看護、健康障害をもつ小児の看護
 テキスト： 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学1
 小児看護学概論 小児臨床看護総論
 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 小児看護学② 小児看護技術
 成績評価： 筆記試験、レポート、講義・演習への参加状況などに基づいて評価する

科目名 母性看護学の概論

56

授業科目の区分 専門分野Ⅱ 母性看護学

履修対象 1年次 後期

単位 1単位 15時間

担当講師 専任教師

授業概要 ライフサイクルにおける母性の特性と起こりやすい健康障害を持つ人々とその人を取りまく人々への看護について理解する。

授業計画

回	学習項目	内容	方法
1	母性看護の基盤となる概念	1) 母性とは 2) 母子関係と家族発達 3) セクシュアリティ 4) リプロダクティブヘルス/ライツ	講義 GW
2	母性看護の基盤となる概念	1) 母性看護のあり方 2) 母性看護における倫理	講義 GW
3	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状	1) 母性看護の歴史的変遷と現状 2) 母性看護の提供システム	講義 GW
4	女性のライフステージ各期における看護	1) ライフサイクルにおける女性の健康と看護 2) 思春期の健康と看護	講義 GW
5	リプロダクティブ・ヘルスケア	1) 不妊治療後に妊娠・出産した女性と家族への看護 2) 先天異常を持つ子どもを出産した女性と家族への看護 3) 周産期に子どもを亡くした女性と家族への看護	講義
6	リプロダクティブ・ヘルスケア	1) 家族計画 2) 性感染症とその予防 3) 人工妊娠中絶と看護	講義 GW
7	リプロダクティブ・ヘルスケア	1) 性暴力を受けた女性に対する看護 2) 児童虐待と看護	講義 GW
8	リプロダクティブ・ヘルスケア	1) 国際化社会と看護 2) 災害時における女性と妊産婦・新生児への支援	講義 GW

発展科目: マタニティサイクルにある人々の看護-1・2・3

母性看護学実習

小児看護学の概論

テキスト: 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[1] 母性看護学概論 医学書院

評価方法: 終講時試験、レポート、参加度

2021.3改訂

科目名	マタニティサイクルにある人々の看護－1【妊婦・産婦】	57
授業科目の区分	専門分野Ⅱ 母性看護学	
履修対象	2年次 前期	
単位	1単位 30時間	
担当講師	専任教師 2名 非常勤講師 1名	
授業概要と目的	妊娠・分娩の生理を理解し、この時期にある人々とその人を取りまく人々への看護を理解する。	

授業計画

回	学習項目	内容	方法
1	妊娠期の看護	妊娠の成立（月経周期も含む） 妊娠期間と分娩予定日	講義
2		妊娠期の身体的特徴 妊娠期の心理的特徴	講義
3		胎児の発育と胎児付属物の機能 妊婦健康診査の概要、妊婦への検査	講義
4		妊娠経過のアセスメント ヘルスアセスメントに必要な技術	講義
5		ヘルスアセスメントに必要な技術	演習・GW
6		健康状態を保持・増進するための看護	マタニティスーツによる妊婦体験等
7		予測される問題と看護 出産準備への看護	
8		健康状態を保持増進するための看護	GW発表
9		予測される問題と看護 出産準備への看護	
10	分娩期の看護	分娩期にある対象の特性 分娩期に必要な用語 分娩の現象の経過・解剖	講義
11		分娩が母胎に及ぼす影響 分娩経過に影響を及ぼす因子 産痛	講義・GW
12		分娩の開始・予測 分娩経過の判断 胎盤娩出・胎児の状態	講義・GW
13		分娩経過の予測 バースプランについて	講義・GW
14		入院時に必要な情報 看護計画	VTR視聴 GW
15		分娩時に必要な情報 看護計画	VTR視聴 GW

発展科目： マタニティサイクルにある人々の看護-2
マタニティサイクルにある人々の看護-3
小児看護学
母性看護学実習

テキスト： 母性看護学Ⅰ 概論 医歯薬出版株式会社
母性看護学Ⅱ 周産期各論 医歯薬出版株式会社
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学〔2〕母性看護学各論 医学書院

評価方法： 終講時試験
レポート、出席状況

2020.2改訂

科目名	マタニティサイクルにある人々の看護－2【褥婦・新生児】
授業科目の区分	専門分野Ⅱ 母性看護学
履修対象	2年次 後期
単位	1単位 30時間
担当講師	専任教師 1名 非常勤講師 3名
授業概要と目的	産褥・新生児の生理を理解し、この時期にある人々とその人を取りまく人々への看護を理解する。

授業計画

回	学習項目	内容	方法
1	産褥期の看護	産褥期看護の特徴 産褥期の身体的特徴	講義・GW
2		母乳分泌 産褥期の心理社会的特徴	講義・GW
3		復古に関する看護 退院後の生活調整への支援	講義・GW
4		母乳育児に関する看護	講義・GW
5		産褥経過のアセスメント 母性看護過程	講義・GW
6		母性看護過程演習	演習(実習室)
7		事例のアセスメント・看護計画立案	
8		沐浴演習	
9		産褥期の看護シミュレーション	演習(実習室)
10		育児支援	GW
11	新生児の看護	新生児の定義 新生児の形態・機能 体外生活への適応(循環・体温・消化)	講義
12		新生児の観察 新生児の診断・検査・評価 新生児の代表的な疾患・治療・看護	講義
13		新生児の看護 出生直後、出生直後から退院まで 産前訪問、母子同室、清潔、環境、医療事故	講義・GW
14		新生児の成長・発達を促す看護 早産児・低出生体重児の特徴、ディベロップメンタルケア	講義
15		疾患を持つ新生児の家族の看護 新生児の家族の看護、看取りの看護	講義・GW

発展科目:	マタニティサイクルにある人々の看護－1 マタニティサイクルにある人々の看護－3 母性看護学実習 小児看護学
テキスト:	母性看護学 Ⅱ 周産期各論 医歯薬出版株式会社 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[2] 母性看護学各論 医学書院
評価方法:	終講時試験 レポート、グループワーク参加度、出席状況

科目名 マタニティサイクルにある人々の看護 - 3 【ハイリスク状態にある妊・産・褥婦】
 授業科目の区分 専門分野Ⅱ 母性看護学
 履修対象 2年次 後期
 単位 1単位 30時間
 担当講師 非常勤講師

授業概要と目的

(目的) ハイリスクを伴ったマタニティサイクルにある人々とその人を取りまく人々への看護を理解する
 (授業概要) 「母性看護学概論」「マタニティサイクルにある人々の看護—1・2」での学びを土台に、
 妊産褥婦に起こり得る正常を逸脱した状況における看護及びその家族について学習し理解を
 深め、更に予防について考える。

(学習への取り組み) ・妊産褥婦の正常経過や判断基準を理解しておく。

・医療・社会情勢の変化に伴い、マスメディアや専門雑誌に関心を寄せる。

・日常生活に目を向けて母性看護に関連して考える。

授業計画

回	学習項目	内容	方法
1	妊娠の異常と看護	・ハイリスク妊娠とは	講義・課題学習
2		・高齢妊婦（出生前診断も含む）・若年妊婦の看護	
3		・多胎妊娠	課題学習 グループワーク 振り返りとまとめ
4		・妊娠高血圧症候群妊婦の看護	
5		・切迫流・早産妊婦の看護 ・糖尿病妊婦の看護	
6	分娩の異常と看護	・妊娠性貧血妊婦の看護	講義・課題学習
7		・破水が生じた産婦の看護	
8		・分娩時異常出血のある産婦の看護	講義・課題学習
9		・胎児機能不全を生じるリスクのある産婦の看護	講義
10		・急速遂娩（吸引分娩・鉗子分娩・帝王切開）を 受ける産婦の看護（陣痛の異常も含む）	講義
11	産褥の異常と看護	・分娩遷延のリスクのある産婦の看護	講義・演習
12		・感染症を持っている褥婦の看護	講義
13		・産後の精神障害について ・帝王切開術後の看護	講義・課題学習 グループワーク 振り返りとまとめ
14	その他問題を持つ 褥婦・家族の看護	・死産・障害がある新生児を出産した親の看護	講義・課題学習 グループワーク 振り返りとまとめ
15			

発展科目 マタニティサイクルにおける人々の看護—1・2

小児看護学（健康障害をもつ小児の看護）

母性看護学実習

テキスト： 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学〔2〕母性看護学各論 医学書院

母性看護学Ⅰ 概論 医歯薬出版株式会社

母性看護学Ⅱ 周産期各論 医歯薬出版株式会社

課題：「死産・障害がある新生児を出産した親の看護」事前に関連のある本を読んでレポートを1月 日提出

レポートは①本を選択した理由②分かりやすく本の内容③本の内容で感じた理由

④まとめ（得た事、考えた事）⑤その他（「本のタイトル」「著者名」「出版社名」）

評価方法： 終講時試験（80％） 課題学習（レポートも含む）（20％）

2020.2 改訂

科目名 精神看護学の概論

60

授業科目の区分 専門分野Ⅱ 精神看護学

履修対象 1年次 後期

単位 1単位 30時間

担当講師 非常勤講師

授業概要 1. 精神の構造と機能を理解し、健康レベルと障害との関連や精神の不健康状態について理解する
2. 精神の発達や健康障害について理解する。

授業計画

回	項目	内容	方法
1	精神看護学の考え方(1)	1) ころとは何か 2) ころの捉え方	講義
2	精神看護学の考え方(2)	3) ころの多様な側面1	グループワーク
3	精神看護学の考え方(3)	4) ころの多様な側面2	発表と相互評価
4	心の構造と働き(1)	1) 認知と感情	講義・演習
5	心の構造と働き(2)	2) 学習と行動1	講義
6	心の構造と働き(3)	3) 学習と行動2	講義
7	心の構造と働き(4)	4) パーソナリティー	講義・演習
8	心の発達(1)	フロイトとエリクソン	講義
9	心の発達(2)	ピアジェ、ボウルビィ、レヴィンソン他	講義
10	家族論	1) 家族のイメージ 2) 家族の機能 3) システムとしての家族	講義・演習
11	精神保健の考え方(1)	1) 正常と異常	講義
12	精神保健の考え方(2)	2) ストレスとその対処 3) 自己効力感	講義・演習
13	主な精神疾患	1) 統合失調症 2) 気分障害 3) その他の疾患	
14	精神疾患の治療	1) 薬物療法 2) 精神療法 3) 社会・環境療法	講義
15	看護の倫理と人権擁護	1) 精神医療におけるアドボカシーの必要性 2) 生活の場としての治療環境 3) 様々な拘束の形 4) 精神障害者の権利擁護	講義

発展科目： 看護学全般 精神看護学実習

テキスト： 系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護の基礎 医学書院

成績評価： 終講時試験、グループワークへの参加と発表評価

科目名 精神障害を持つ人の理解
 授業科目の区分 専門分野Ⅱ 精神看護学
 履修対象 2年次 前期
 単位 1単位 15時間
 担当講師 非常勤講師
 授業概要 精神障害の診断と治療を理解し、看護援助に活かす。

授業計画

回	項目	内容	方法
1	1. 精神医療と看護の歴史的変遷	1) 日本の精神保健医療看護の歴史 2) 精神医療の現状と問題	講義
2	2. 精神障がい者の分類と特徴	1) 統合失調症	講義
3		2) 気分障害	講義
4		3) 不安障害 4) 人格障害（パーソナリティ障害） 5) アルコール依存症	講義
5		6) 身体表現性障害 7) PTSD 8) 認知症	講義
6	3. 医学的検査と心理検査		講義
7	4. 治療の構造 1) 身体療法	(1) 薬物療法 (2) 電気けいれん療法	講義
8	2) 精神療法	(1) 個人・集団精神療法 (2) 家庭(社会) 精神療法	講義

発展科目： 精神看護学他、看護学全般
 精神看護学実習
 テキスト： 精神看護学Ⅰ 精神保健学 第6版 NOUELL HIROKAWA
 精神看護学Ⅱ 精神臨床看護学 第6版 NOUELL HIROKAWA
 成績評価： 終講時学科試験

科目名 精神に障害を持つ人の生活と看護

62-1

授業科目の区分 専門分野Ⅱ 精神看護学

履修対象 2年次 後期

単位 1単位 30時間

担当講師 非常勤講師

授業概要 精神に障害をもつ人の共感的理解を通じて、種々の疾患や症状およびその治療過程における看護を学ぶ。症状による苦痛の軽減や生活上の困難を補うこと、また健康の回復と社会復帰に向けた自立の支援について学習する。

授業計画

回	項目	内容	方法
1	精神臨床看護 Ⅰ. 精神看護の考え方 Ⅱ. 精神を病む人の理解と対応	1) 精神看護の考え方 2) 精神看護師の役割 3) 精神看護の経済性 1) 精神疾患患者の理解 2) 行動制限と看護	講義
2	Ⅱ. 精神を病む人の理解と対応	3) 急性期から回復期・慢性期の看護	講義
3	Ⅲ. 精神看護のリスクマネジメント Ⅳ. 精神看護に用いる理論・モデル	1) リスクマネジメントとは 2) 精神科医療における医療事故 3) 事故防止と対応 4) 無断離院の防止と対応 セルフケア理論	講義
4 5	Ⅴ. 精神を病む人への看護援助の基本	1) 日常生活援助 2) 活用する技法 コミュニケーション ロールプレイング カウンセリング S S T 作業療法 面接 レクリエーション	講義
6	Ⅵ. 精神看護の看護過程 Ⅶ. 司法精神看護	精神看護の看護過程 1) 司法精神医療と医療観察法 2) 医療観察法における処遇 3) C V P P P	講義
7	精神看護の実践 症状アセスメントとケアプラン	1) 幻覚・妄想患者の看護 2) せん妄患者の看護	講義
8		3) 抑うつ状態の患者の看護 4) 興奮状態の患者の看護	講義
9		5) 拒絶的な患者の看護 6) 引きこもり状態の患者の看護	講義
10		7) 操作をする患者の看護 8) 自殺・自傷行為がある患者の看護 9) 不眠状態の患者の看護	講義
11		10) 依存状態の患者の看護 11) 認知症の患者の看護 12) 不安状態の患者の看護	講義
12		13) 意欲減退状態の患者の看護 14) 攻撃的行動をとる患者の看護 15) 強迫行為のある患者の看護	講義

回	項目	内容	方法
13	精神看護の実践 症状アセスメントと ケアプラン	16) 躁状態の患者の看護 17) 解離性障害の患者の看護 18) 摂食行動の障害の患者の看護	講義
14		19) パニック障害の患者の看護 20) 児童・思春期・青年期の精神看護 21) 身体合併症患者の看護	講義
15	精神訪問看護 精神障害者の リハビリテーション	1) 精神科リハビリテーション 2) 精神訪問看護	講義

発展科目： 精神看護学および看護学実習全般
 テキスト： 精神看護学Ⅰ 精神保健学 第6版 NOUVELLE HIROKAWA
 精神看護学Ⅱ 精神臨床看護学 第6版 NOUVELLE HIROKAWA
 成績評価： 終講時学科試験

2016.8改訂

科目名 生活の場と精神保健

授業科目の区分 専門分野Ⅱ 精神看護学

履修対象 2年次 後期

単位 1単位 15時間

担当講師 非常勤講師

授業概要 精神保健医療福祉における現状と支援活動、災害精神保健活動について解説

63

授業計画

回	項目	内容	方法
1	精神保健医療福祉の 実際	新聞やインターネット等で配信されている最新の 精神保健・医療・福祉の実際について資料学習。	資料・パワーポイ ント・DVD視聴
2	家庭・学校・職場の 精神保健	テキスト「精神保健と社会」①～③の項目に沿って 解説。課題分析のためのアセスメントの個人ワーク 学習。	テキスト・資料・ パワーポイント・ DVD視聴 (第2回講義以降
3	保健医療に関する 資源の活用と調整	テキスト「精神保健と社会」④の項目に沿って解説。 精神科病院や行政機関の支援の実際を紹介。	同じ)
4	社会資源の活用と ケアマネジメント	テキスト「精神保健と社会」⑤の項目に沿って解説。 姫路市内の障害福祉サービス事業所の活動と支援 技術であるケアマネジメントの視点・技術を学習。	

5	災害時地域精神保健 医療活動	阪神大震災以降活動している行政と精神科病院が 連動して取り組んでいる災害時の支援を学習。 ひょうご DPAT 活動やサイコロジカルファースト エイドの実際を確認。	
6	社会復帰・社会参加 の基本	テキスト「精神保健と社会」⑦の項目に沿って解説。 精神保健福祉法等における退院支援について説明。 模擬事例を用いた、精神科病院からの退院支援の	
7	事例学習	実際についてグループワークを行う。 これまでの講義のふりかえりを行う。	
8	まとめ		

コメント 姫路市内の精神保健医療福祉活動を交えて解説。

発展科目 精神保健医療の歴史についても確認。

テキスト 精神看護学Ⅰ 精神保健学 第6版 NOUVELLE HIROKAWA

成績評価 終講時学科試験

2019.3 改訂